

竹井^{たかこ}准子氏 (昭和55年応化卒 1957-2014)



竹井准子氏

常盤台キャンパスにある横浜国立大学附属図書館、その1階に「竹井准子の思い出」という書籍が所蔵されている。書籍の編者である准子さんの姉、天野三恵子さんは「妹は本当に素晴らしい人だった。その記録を残したかった」という。書籍には横浜国大時代の友人、国内外の親しい方々の追悼文が納められている。書籍は化学棟事務室にも所蔵されている。

天野さんが妹竹井准子さんの素顔を語った。

2015年度からYNU 竹井准子記念奨学金が設立された。2014年4月14日、57歳の若さで逝去された竹井准子さんの遺志に基づく奨学金だ。毎年3人の女子学生に奨学金が与えられる。今年度は6月13日に贈呈式が行われ、3名の奨学生が第三期奨学生として採用され、累計9名になった。2015年度の贈呈式に出席した天野さんは「竹井准子記念奨学金」という表示を見て涙が込み上げるのを必死にこらえたという。

竹井准子さんは生まれた日に雪が降っていたのを覚えていると言っていた。記憶力が子供の頃から抜群に良かった。品川区五反田池田田で生まれ、近所には皇后の美智子さまが住んでおられた。小学校に入った時には両親が先生に「天才だ」と言われたという。特に数学が得意で高校、大学生になっても数学のテストはほとんど100点だった。

姉が幼稚園に行ったら自分も行きたいと、幼稚園の帽子をかぶりカバンを持って家の周りを一周して帰ってきた。自分で「ほこだ幼稚園」という名前まで付けていた。子供の頃からピアノも上手で、実家に来ては50歳くらいまでピアノを弾いていた。本も好きで自らの書斎にはテクノロジーから医学、哲学、漫画までいろいろなジャンルの本が並んでいた。歴史の本では姉と読んだ本の話で良く盛り上がった。

お父様は住宅産業を創業されたが、女性は手に職を持つべきで、どんな社会になろうとも食べていける医師になって欲しいと考えていた。その志をお二人のお嬢様が引き継がれたようだ。准子さんは小さい頃「お医者さんになる」と言っていたが、医師より化学者になりたかったのかもしれない。都立荻窪高校を卒業し、進学したのは横浜国立大学工学部応用化学科だった。

大学4年時には応用化学科で大塚淳教授の無機化学の研究室に入り、セラミックスの研究をした。成績も良かったので、推薦で大学院への進学もできたが、大学4年を終えると同時に埼玉医科大学に一番で入学、首席で卒業した。その頃から多彩な才能を発揮され、埼玉医科大学5、6年時にはコンピューターのプログラミングの会社、ルーラル・システム・インテグレーションを立ち上げた。

埼玉医科大学を卒業し1986年6月には順天堂大学形成外科に入局、医師としてのスタートを切った。順天堂大学では様々な勉強会等で発表をし、その発想が斬新だったという。順天堂大学の医局でも他の医師と数学の問題を解く競争をしたという逸話も持つ。

1991年9月からはドイツのマンハイム大学で哲学と心理学を学んだ。マンハイム大学はドイツでも哲学で有名な大学だった。自然科学や医学の素養があったにもかかわらず、さらに広い世界を知ろうとドイツに渡った。1993年2月までマンハイムで学び、海外にも多くの知人を持った。そして日本が更になくなった。

ドイツから帰国すると、姉妹で「調布えきまえ皮膚科」を1993年12月に開業、准子さんが院長に就

任した。名前の通り調布駅前のビル3階にクリニックはあり、現在は天野三恵子さんが院長を務める。

天野さんが竹井准子さんから自分がガンだと聞いたのは2010年8月5日のことだった。そこからは姉妹の生活が一変した。三恵子さんが「調布えきまえ皮フ科」を続けることを決断すると、准子さんはクリニックの完璧なマニュアルを作った。お母様を旅行に連れて行ったりもした。三恵子さんが准子さんを広くバックアップする一方で、病気になっても酸素ボンベの手配などは准子さんが自身でした。

周囲の人には病気のことは話さなかった。2012年から「ぼちとみ」のペンネームで時事ものの漫画を描いた「時事放漫」をネットにアップしていた。子供の頃から好きだった漫画の才能を時事ものに発揮

した。ただ、三恵子さんが時事放漫の存在を知ったのは1年後だった。多芸多才の人だったが、誰にも自慢はしなかった。

本物の実力がある人が好きだった。非凡、孤高の人、努力家、才色兼備、沢山の知識を持ち、政治、経済、物理など色々なことに精通していた。権威におもねるわけでもなく、逆らうでもない。出しゃばりや派手とは無縁。でも、弱者には優しくかった。文字通りのなでしこだった。

准子さんの誕生日2016年2月3日に「竹井准子の思い出」と「時事放漫」は同時に発行された。

インタビュアー 会誌グループ 藪健一郎

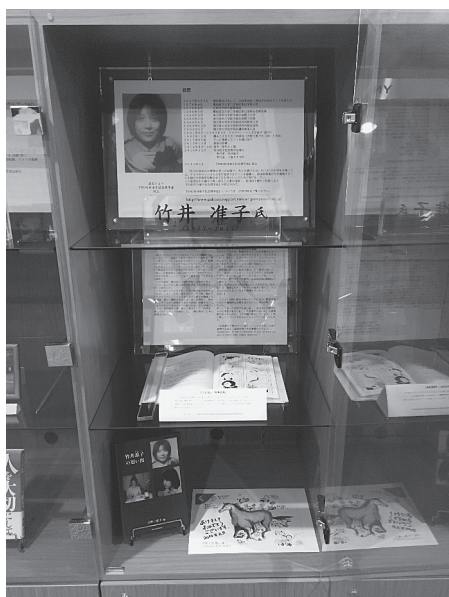
プラウド卒業生とは

国大化学会諮問委員 平井太一郎（昭和41年2部応化卒）

2016年度横浜国立大学プラウド卒業生に「YNU竹井准子記念奨学金」1億5千万円を寄付した竹井准子氏が認定されました。

図書館にプラウド卒業生文庫として展示されています。

YNUプラウド卒業生文庫 竹井准子氏



全体

国大化学会としては、2014年の中川越氏（1931年横浜高等工業学校応用化学科卒業明治製菓代表取締役社長）に次いで2人目の認定です。

〔YNUプラウド卒業生文庫とは〕

本学を卒業して社会で活躍されている方や顕著な成果を上げられた方など社会的貢献度の高い先達の業績を展示紹介することにより、在学生在が感銘や刺激を受けて将来の自分の姿を思い描き、生涯に亘る人生設計や自己実現に繋げることを目的としていま



上段

す。YNUプラウド卒業生文庫として、業績を図書館に5年間展示しています。(2013年から、基本的には全学の3同窓会から毎年1名認定)

竹井准子氏は1980年工学部応用化学科を次席で卒業した後、埼玉医科大学医学部に首席で入学し、1986年首席で卒業後順天堂大学形成外科・皮膚科教室に入局しました。憧れていたドイツのマンハイム大学に留学し、哲学を勉強して帰国しました。

帰国後、天野三恵子氏(姉)と共同で「調布えきまえ皮フ科」を開院して地域医療に貢献して、地域の人達から根強い信頼を受けました。バリバリのワーカホリックでありましたが、癌に侵され2013年11月の診療を最後に2014年4月に逝去(享年57歳)されました。

死後竹井准子氏の遺志を引き継ぎ天野三恵子ご夫妻が相談し、竹井治子様(母)のご厚意により『YNU竹井准子記念奨学金』が設立されました。(2015年4月)

竹井准子記念奨学金寄付(2014年12月)

寄付金: 1億5千万円

(これまでの奨学金授与実績)

2015年6月 第一回YNU竹井准子奨学金授与(女子学生3人)

2016年6月 第二回YNU竹井准子奨学金授与(女子学生3人)

2017年6月 第三回YNU竹井准子奨学金授与(女子学生3人)

竹井准子氏の奨学金への想い

「自分は恵まれた環境に育ったお陰で、たいした頭でもないのに2つの大学を卒業した上、ドイツのマンハイム大学に留学できたことに感謝し、経済的事情のため勉強することが困難な人のために寄付したい。」

竹井准子氏プロフィール

1957年2月3日	東京都品川区五反田池田山で誕生
1980年3月	横浜国立大学工学部応用化学科卒業
1980年4月	埼玉医科大学入学
1986年6月	順天堂大学形成外科入局
1991年9月	ドイツ・マンハイム大学哲学科入学
1993年12月	調布えきまえ皮フ科開業
2014年4月14日	逝去
2015年度	YNU 竹井准子記念奨学金設立



大塚淳教授(前列一番右)の研究室の竹井准子氏(前列中央)